

大会宣言

この度の東日本大震災は、その地震、津波による被害の甚大さに加えて原子力発電所問題さらには風評被害によって過酷な生活を強いられている多くの被災された方々がおられます。

私たちは社会福祉士として、社会福祉士会としてできることを、この京都大会を通して明らかにしてきました。私たちは次のことを改めて確認します。

私たちは、被災された方の力と地域が復興する力を信じ尊重し、現地のニーズにもとづいた被災者及び被災地主体の支援を行います

私たちは、被災された方の生活を支援するため、ソーシャルワーク専門職としてその知識と技術を発揮する支援を行います

私たちは、被災された方の生活が元に戻り地域が復興することを見据えた、長期にわたる継続的な支援を組織的に行います

私たちはすでに、被災地における被災者支援や、被災地県外における避難者の支援を開始しています。また、スクールソーシャルワークに係る支援を始めます。そして、今後、災害におけるソーシャルワーカーの役割を研究し、平時においても会員への災害対応に対する啓発と力量向上に努め、社会福祉士会全体の災害対応における組織体制を強化します。また、行政に対して、災害対応には行政の体制にソーシャルワークのスキームを組み込むことが必要なことを要請します。

私たちは社会福祉士として、社会福祉士会として総力を上げて、被災者の方々にとって「復興」が見えるまで、支援を継続していくことを宣言します。

2011年6月5日

第19回日本社会福祉士会全国大会（京都大会）